

令和3年4月1日

令和3年度学校経営方針

墨田区立業平小学校長
山田 明

I. 学校経営の基本的な方針

現在、AIやICTがめまぐるしく進歩している。今年度施行となる新指導要領など、教育改革が急速に進んでいる。校長は学校本来の役割をしっかりと自覚し、教育における不易と流行を見極め、理想の実現に邁進していかなければならない。校内組織の活性化を図り、教職員が一丸となって独学自修の精神を基調とし、「知・徳・体」のバランスのとれた子供の育成に当たるとともに、学ぶ喜びに満ちた楽しい教育活動を家庭・地域と一体となって推進し、「地域の教育機関」として地域・保護者から信頼される学校を目指す。また、昨今の感染症対策に鑑みソーシャルディスタンス・感染拡大防止に関する行動をとりながら新しい生活様式を踏まえた安全で安心な教育活動を推進する。

「目指す学校像」

- ①子供たちが誇りにする学校
 - ・一人一人が認められ、生きること喜びと自信をもつことができる。
- ②教職員が誇りにする学校
 - ・研究と研修を土台にして、教育者としての自信と意欲をもつことができる。
- ③保護者・地域が誇りにする学校
 - ・地域・保護者から信頼され、業平小学校に子供を預けてよかったと思うことができる。

1. めざす児童像

「独学自修」の校訓の下、人権尊重の精神を基調に、個人として、社会の一員として社会生活を営む上で必要とされる、知識・技能・態度の基礎を身に付け、豊かな人間性を育成する。また、人間や自然・社会・文化など様々な対象とのかかわりを通じて、自己の個性や良さを発見する素地を養い、自分の道を自ら切り開いていく力を培うために以下のような児童像を設定する。

- ◎ 進んで学ぶ子
- やさしい子
- 元気な子

II. 本年度の具体的方針

1. 学校教育の役割を自覚し、教育の充実を目指す。

- ① 「自分の命は自分で守る。」ことを徹底させ、児童の危険回避能力を高めると共に、様々な想定で保健指導・安全指導・避難訓練を行い、教職員共々臨機応変で、適切な対応ができるようにする。
- ② 全ての児童の基礎学力を向上させると共に、問題解決的な学習活動を推進し、児童の考える力・洞察力・表現力などを養う。
- ③ 新学習指導要領の実施に向けて、その意義を理解すると共に「道徳」「英語・外国語活動」など新規に教育課程に位置づけられた指導内容・指導方法について熟知する。
- ④ 校内外の研修等を通して個に応じるための各教科で個を大切に計画的指導を展開する。年間指導計画、学年経営案、学級経営案、週案など、意図的・計画的な教育活動を推進する。
- ⑤ 教職員一丸となって学校行事を活性化し、地域行事に参加すると共に、地域・関係諸機関と連携した防災訓練を実施し、学校安全教育を推進していく。
- ⑥ 厳しさとあたたかさのある一貫した生活指導を進める。差別やいじめを絶対に許

さない厳しい指導、あやまりや失敗を許すあたたかい指導を、全職員の共通理解で進める。

- ⑦ 児童の基礎体力の向上に向け、さらなる体育的な行事の充実・指導方法の改善を行う。特に校庭や体育館が狭いため運動量の多い競技や持久力を高める運動を計画的に実施する。
- ⑧ 行事毎、また一定の期間で教育活動の評価を行い、学校運営連絡協議会とも連携しながら学校の成果・課題を捉え、改善しながら教育活動を展開する。
- ⑨ 学校図書館司書を活用し、選書指導、読書週間を身に付けられる指導を計画的に行い、読書への関心意欲を高め、さらに読書量を増やす。学校図書館を活用した「調べる学習コンテスト」等に積極的に参加し、児童の学習意欲や、説明力や批判力を高める。
- ⑩ 今年度実施予定であるオリンピック・パラリンピックに向け、世界の国々の文化や歴史を学び、交流することを通して国際理解を深めるとともに、日本の文化伝統を身に付け、進んで平和な社会の実現に貢献できる、広い視野をもった児童の育成に努める。また、外国人をおもてなしできる子供の育成にも努める。
- ⑪ 英語指導の責任者を中心により専門性の高い指導内容に取り組むとともに、教員のさらなる指導力の向上も目指していく。
 - ・「ENGLISH HAPPY ROOM」の環境を整備し活用する。
- ⑫ 東京都のオリンピック・パラリンピック教育を推進し、「体力アップキャンペーン」を有効に活用し、「体力向上プラン」を基に、年間を通じた体力向上を目指し、授業・行事集会その他の活動を通して運動量を確保し、体力向上に努める。
- ⑬ 体育朝会の実施（年間指導計画作成）と体育月間を設定し、休み時間等を有効に利用して、日常における体力の向上に関わる取組を推進する。

2. 一人一人が生き生きと学習できるようにする。

- ① あらゆる差別や偏見を無くすため、人間としての基礎・基本である生き方や在り方を考えさせ、「差別をしない」「差別を許さない」という態度を全教育活動を通して身に付けさせるようにする。
- ② 自ら課題を発見し、主体的に解決する喜びを味わえる授業を展開する。地域・企業等と連携した体験活動等を計画的に実施し、望ましい勤労観・職業観を育成するためのキャリア教育を展開する。
- ③ 分からないことが自然に言え、学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが当然の事として受け入れられる学習指導を進める。褒めて、認めて、励ます指導と肯定的な評価を実践し、学習への意欲を高める
- ④ 校内研修を中心に、互いの指導技術を練磨し、全教職員の資質の向上に努める。
- ⑤ 学校図書館や理科室、パソコンルームなど、特別教室の積極的な活用を図るとともに、利用しやすい環境整備に努める。
- ⑥ 出前授業・授業協力者、地域人材を活用した体験的活動を計画的に取り入れることで興味・関心を高め、体験に基づいた知識・理解を育てる。
- ⑦ 子供が互いに良さを認め合い、人権を尊重できるように人権感覚を磨くとともに、「あいさつ」「言葉遣い」を重点に、思いやりと豊かな心を育む。

3. 楽しく落ち着いた生活ができるようにする。

- ① 児童一人一人を生かし育てる学級経営、専科経営、保健室経営に努める。
- ② 幼稚園・保育園との連携や縦割り班の活動、中学校教員の派遣など、年間を通して計画的に工夫し、異年齢集団を通じた子供達の好ましい人間関係を育む。幼保小中の一貫性・連続性のある11年間を見通した指導や交流・連携を行う。
- ③ 読み聞かせや、図書館司書による学校図書館整備・読書指導などを通して、読書に対する関心・意欲を高めると共に、言語環境を充実させる。
- ④ 特別な支援を必要とする児童や配慮を要する児童に対して、教職員が共通理解し、知恵を出し合い、協力して組織的に指導すると共に、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、家庭支援センターや児童相談所など、関係諸機関と連携を密にした体制を確立する。
- ⑤ あたたかな雰囲気の中で教育活動を行うために、限られた空間ではあるが、緑を

- 豊かにし、環境に配慮し、子供たちの落ち着いた心情を養う。
4. 健康で安全な生活ができるようにする。
 - ① 交通事故や不審者に対して、十分な安全対策を構築し、児童の安全確保に努める。
 - ② 児童一人一人が様々な危機の状況に対応できるよう、毎月の避難訓練と安全指導を工夫するとともに、防犯訓練（セーフティ教室・薬物乱用防止教室）を実施する。地域と連携した防災訓練を実施する。
 - ③ 施設・設備の安全に留意し、全教職員による定期的な安全点検と日常点検により、安全な施設・設備の維持に努める。
 - ④ 自らが健康と安全に努めるよう、児童一人一人の自覚と意欲を喚起する。
 - ⑤ 体育的行事を集会に取り入れ、年間行事予定の中に位置づけ、運動に親しむ態度を養うことにより、健康な体づくりに興味・関心をもたせる。
 - ⑥ 健康・安全面での知識・理解を深める指導を行うとともに、感染症の予防・子供の食物アレルギー等の実態を共通理解し、教職員全員が緊急対応できるようにする。
 - ⑦ 家庭や地域との連携を図りながら、教育活動の中で食に関する指導を体系付け、教育活動全体を通じて発達の段階に応じた食と健康に関する指導を推進する。
 - ⑧ 子供が互いに良さを認め合い、人権を尊重できるように人権感覚を磨くとともに、「あいさつ」（分離礼の励行）「言葉遣い」を重点に、思いやりと豊かな心を育む。子供の「あいさつ隊」による朝の挨拶の徹底。
 - ⑨ インターネットの適正利用等、「SNS 業平ルール」を遵守し、情報モラル教育を推進する。
 5. 開かれた学校として、家庭・地域社会との連携と信頼関係を大切にする。
 - ① 学校行事や授業を積極的に公開し、地域に開かれた学校に努める。地域と連携した防災訓練を行い、相互の信頼関係をより強くする。
 - ② 学校運営連絡協議会を通して、学校・保護者・地域の相互理解を図り、より良い教育活動を実践できる学校、地域に開かれた学校としていく。
 - ③ 学校評価（内部・関係者・第三者）を次年度の教育計画に生かし、教育活動の改善・充実を図り、家庭・地域から信頼される学校づくりに努める。
 - ④ 地域の特色を活かし、人々の理解と協力を得ながら、地域の人材・施設・企業などの活用を積極的に進め、教育活動に生かす。
 - ⑤ 学校便りや学年・学級便り、ホームページ等を通して、情報を積極的に広く提供することにより、家庭や地域とのつながりを強くし、地域の教育機関として信頼される学校を構築する。
 - ⑥ 墨田の歴史的人物「葛飾北斎」を題材にした授業を実施し、その活躍を知るとともに、北斎に親しませる学習をとおして地域の伝統文化に対する誇りをもたせる。
 6. 公立学校の教職員であることを自覚し、児童・保護者や地域社会の人々の期待と信頼にこたえる。
 - ① 一人一人が教育活動全体の流れを把握して物事に取り組み、チームワークの良い教職員集団を目指す。また、授業改善プランを基に、自らの授業力の課題を明確にし、指導技術を高める。
 - ② 公務員としての立場を自覚し、明るさの中にもけじめがあり、誠実で信用失墜行為等の防止に努める教職員。
 - ③ 「和」を大切にした教職員相互の連携・地域、保護者との連携を目指す。
 - ④ 人権感覚や危機管理意識をもち、体罰や暴言等がなく教育効果の高い指導ができる教員を目指す。
 - ⑤ 主幹・指導教諭・主任教諭等、OJTを活用した研修体制を組み、計画的・効率的な人材育成を行う。また、区内・校内の指導教諭等の模範授業を参観させその成果を共有する場を設定する。
 - ⑥ 自ら学び伸びる教師、自覚と誇りをもって職務に専念する教職員。
 - ⑦ OJTに沿って効率的に仕事を進め、余暇の効果的な利用を促進しながらライフワークバランスを大切にし、教育効果を高める。
 - ⑧ 「ファミリー業平」を合い言葉に、「自分が良ければ」ではなく、「全体が良くならなくては」という意識でより強固な組織を作る。